特定非営利活動法人 CRASEED
ISSN 1881–1507
リハビリテーション医療推進機構
CRASEED NEWS 14
Organization for Clinical Rehabilitation with Advanced Science and Effective EDucation
発行：NPO 法人 リハビリテーション医療推進機構 CRASEED ／年 4 回発行／第 14 号（2010 年 5 月 15 日発行）
〒 560-0054 大阪府豊中市桜の町 3-11-1 関西リハビリテーション病院内 TEL 06-6857-9640 URL : www.craseed.org

ADL 評価法 FIM 講習会（西日本第 5、6 回）

2010 年 1 月 30 日(土)、31 日(日)に、**西日本第 5、6 回 ADL 評価法 FIM 講習会・FIM 等機能評価活用法研究会（FIM 活用研究会）**が兵庫医科大学平成記念会館で開催されました。参加人数は FIM 講習会が 1 月 30 日（約 145 名）、1 月 31 日（約 154 名）、FIM 活用研究会が(約 128 名)でした。FIM 講習会は 2010 年度で CRASEED では第 5、6 回目の開催となり、前年度と同様、同じ内容の講習会を土・日の午後 2 日間で行われました。前年度までの FA 大会は FIM 活用研究会と名前を替え、FIM をはじめとする機能評価法を用いた研究発表会と特別講演を組み合わせ、FIM 講習会の間の日曜日の午前中に開催されました。

1. FIM 講習会

はじめに、兵庫医科大学リハビリテーション医学教室教授の道免和久先生から、FIM が我が国に導入された経緯・使用にあたっての留意点につき、分かり易く講義していただきました。

目次

1 … ADL 評価法 FIM 講習会（西日本第 5、6 回）報告
2 … お仕事紹介：第 1 回アジア慢性期医療学会参加記
3 … 病院紹介：医療法人明倫会宮地病院
3 … 職種紹介：歯科医
4 … 書籍紹介：リハビリテーション評価データブック

次に、関西リハビリテーション病院の佐藤健一先生が FIM の総論を講義されました。

FIM 各論での運動項目の移乗と移動はそれぞれ関西リハビリテーション病院の看護師の浅尾敦子先生、杉尾清美先生が講義され、食事・整容は佐藤健一先生が講義されました。それぞれ動画による実例が具体的で分かり易く、講義の内容を引き続き動画で確認できる方式で進められ、初めての受講者にも非常に分かり易い講義でした。続いて、清拭・更衣、トイレ動作、排泄コントロールはそれぞれ関西リハビリテーション病院の看護師の柏木美和先生、杉尾清美先生、近江和子先生が講義されました。スライドによる講義形式が統一されており、視覚的な配慮が十分されていました。特に、理解しにくいと言われる排泄コントロールを、時間をかけて丁寧に説明していただき、私にとっても非常に良い勉強となりました。

次に、FIM の認知項目は兵庫医科大学病院の作業療法士の牧口浩司先生と大川直子先生が講義されました。前々回から「わかりにくい」という声が多かった認知項目は、時間を十分に取りながら、丁寧に分かり易く説明していただきました。スライドでは、スタッフと患者様のやり取りをシミュレーションした動画を用いて、より実践的な知識を身につけることができました。

さらに、今回新たな試みとして、「すぐ役立つ FIM 活用法」を、兵庫医科大学病院の内山侑紀と兵庫医科大学篠山病院の田崎智子先生により講義させていただきました．内容は、西宮協立脳神経外科病院の小山哲男先生の論文を基にした FIM 予測法、運動項目の

自立度予測、自宅復帰率に関し、すぐに臨床現場で活用することができるよう、分かり易さを心掛けて講義させていただきました．幸い受講者の皆様からは良い評判をいただき、今後も是非続けて講義させていただければと思います．

2. FIM 活用研究会

前半の研究発表会では前回より増して 9 演題が集まり、地域に直結した病院での FIM の導入の取り組みから、回復期病院での評価はもちろん、予後を含めた幅広い観点から発表をいただき、活発な討論がなされました。その後、特別講演の「脳卒中患者の嚥下の予後予測」を西宮協立脳神経外科病院の小山哲男先生より講演していただきました。先生がこれまで発表されてきた FIM による予後予測を基盤とした、経口摂食復帰の確率予想モデルに関した研究を、嚥下に関わる器官の発生学に始まり、研究のプロセス・手法から順を追って紹介され、非常に興味深い内容を分かり易く解説していただきました。

以上、今回の FIM 講習会、FIM 活用研究会は大盛況のうちに幕を閉じました。FIM 講習会で FIM について学び、FIM 活用研究会で FIM の有用性について知見を深めることができ、明日からの臨床現場での応用のために大いに有用な講習会でした。　（内山侑紀）

メンバーの
お仕事紹介

第１回アジア慢性期医療学会参加記

関西リハビリテーション病院の経営母体である医療法人篤友会は、2008年４月に韓国にあるヒョジャ療養病院※1・コチャン総合病院※2と姉妹病院の提携を結び、互いの国を訪ね、スタッフ間の交流や今後の障害者医療・高齢者医療について意見交換を行っております。今回、ヒョジャ療養病院理事長の殷さん、院長の金さん、看護師の高さんを日本にお招きし、３月13日・14日に国立京都国際会館で開かれた、慢性期医療としては初の国際学会である「第１回アジア慢性期医療学会」に参加いたしました。その報告をいたします。

【学会報告】

日本をはじめアジアや欧米各国から1,200人以上が参加し、社会保障制度の在り方などについて議論が行われました。シンポジウムでは、アジア各国の専門家から高齢者に関する社会保障政策などについて報告がありました。ソウル国立大のスンマン・クォン教授は2008年７月に韓国で導入された介護保険制度について報告があり、韓国では健康保険と介護保険の線引きが明らかでないこと、サービスの過剰供給による「不公正な競争」への懸念などを指摘がありました。一般演題は220の発表と活発な討議がされました。篤友会からは口述発表９題、ポスター発表４題の計13題の発表を行い、各分野で活発な意見交換を行いました。このうち篤友会、ヒョジャ療養病院、コチャン総合病院との共同発表をご紹介いたします。

【高齢者医療、ターミナルケアにおける日韓の意識調査についての報告】

◇◇◇

発表者：医療法人篤友会　医療連携室
　　中井康敏

《背景及び目的》

多くの方々は最期を迎える場所に「自宅」を希望されている。しかし、現実には８割以上の方が病院で亡くなっているという現実を踏まえた上で、今後療養型の病院が医療の質を担保した上に、加えてどのようなサービスを提供すればいいのか検討するため日韓二国で行った意識調査を報告する。

《対象及び方法》

調査はアンケート形式で行った。設問内容は基本情報として性差、年代、立場等７項目、「最期をどこで迎えたいか」とその理由を選択方式で回答。回答総数は1,309名、内訳は日本1,141名（当職員255名、街頭で回答を得た方、協力機関になって頂いた各会社職員や大学の教職員･学生等、医療従事者以外の者886名）、韓国は168名（姉妹病院関係者及び患者、患者家族等）であった。

《結果及び考察》

最後を自宅で迎えたいと回答したのは、日本で71％、韓国で51％であった。自宅を選択した理由は日本も韓国も約半数が「家族と過ごしたいから」であり、次いで「住み慣れた場所」であった。日韓とも共通して血縁・地縁を重視していることがうかがえる。しかし、その実現困難理由については、韓国では55％が社会制度の問題と答え、日本では82％が介護する家族の問題と答えている。自宅以外での最期を選んだ理由については、日本は介護負担の軽減等の家族への配慮が79％を占めていた。一方、韓国は家族への配慮も53％と多いものの、社会制度の問題と答えた方が30％あり、新しく始まった社会制度に対する不安感が示唆される。

発表を終えた関西リハビリテーション病院メンバー

《結語》

「病院で最期を迎える現実」を意義あるものに変えるには、家族が困難なことは病院や施設の専門職が行い、その中でできる限り家族が無理なく最期まで関われるようにサポートする。そのような患者と家族のかかわりを、最期を迎える時まで大切につなぐ環境を提供することが、今後の終末期医療にとって必要なことと思われる。

以上

◇◇◇

【最後に】

この学会は急性期以外のすべての医療について包括的に議論し、高齢社会を迎えつつあるアジア諸国が現状を直視して、共通の問題として意識することが命題となっています。次回予定は２年後韓国での開催が打診されています。

早春のこの時季に、京都ならではの舞妓さんや書道、お茶などの伝統文化を紹介するコーナーも人気で、各国の参加者も楽しんでおられました。

医療法人篤友会
関西リハビリテーション病院
理学療法士　石田浩一

※1 ヒョジャ療養病院
韓国の南岸に位置する精神科中心の病院。認知症病棟を有し、高齢者を中心とした医療・施設を展開。

※2 コチャン総合病院
韓国南西に位置する主に急性期を中心とした病院。昨年夏に、当院建築を参考にリハビリテーションのできる療養病棟を新設。

病院紹介

医療法人明倫会　宮地病院

宮地病院は、神戸市東灘区に位置し地域に密着した医療・福祉を展開してきました。地域の二次救急を担う一般病棟、回復期リハビリテーション病棟、医療度の高い重症患者様のための医療療養病棟を有しています。また、神戸市内、芦屋市に介護老人福祉施設、介護老人保健施設を運営しており、病院、施設、在宅まで切れ目の無いサービスの提供を目指しています。

URL：http://www.meirinkai.or.jp

1．病院の概要

病床数：158 床（一般病棟 44 床、うち亜急性期病床 8 床、回復期リハビリテーション病棟 57 床、医療療養病棟 57 床）

標榜科目：内科、消化器科、循環器科、整形外科、放射線科、リハビリテーション科、リウマチ科

認定・表彰：医療福祉建築賞（1998 年）、病院機能評価（2007 年更新）、こうべ男女いきいき事業所表彰（2007 年）、働きやすい病院評価認定（2008 年）、エコ活動で中小企業同友会　審査委員長奨励賞受賞（2008 年）

付属施設：キッズクラブもとやま（保育所）

2．リハビリテーションの特徴

リハビリテーションスタッフは、リハビリテーション科医師 2 名（内専門医 1 名）、理学療法士 18 名、作業療法士 15 名、言語聴覚士 10 名です。スタッフの平均年齢は低く、若さと活気にあふれています。

回復期リハビリテーション病棟の在宅復帰率は 80％、平均在院日数は 80 日、FIM 改善値は 17.4、疾患別では脳血管疾患 60％、運動器疾患 35％、その他 5％となっています。

近隣の病院・関連施設からの紹介がほとんどを占め、地域連携パスによる紹介も増加しています。重症度、予後に係わりなく紹介は全例受け入れています。リハビリは週 7 日提供し、多職種によるカンファレンス、退院に向けての試験外泊、介護保険の申請、家屋評価などきめ細かく対応しています。

（宮地千尋）

リハビリテーション関連職種紹介 ⑫

歯科医（Dentist）

関西リハビリテーション病院の歯科では入院患者のみを対象としており、口腔ケアや摂食嚥下障害に対しての歯科的アプローチによる治療を主に行っています。

当科受診される多くの患者は、全身状態による制約や、障害（麻痺など）による制約などで、口の中は十分に清掃することができずに食べかすが何ヶ月も溜まっていることが多く、義歯の手入れも十分に行えていない場合がほとんどです。

歯科的アプローチの大きな目的は、①食塊形成を良好にすること、②喉へ送り込みやすくすること、③誤嚥性肺炎を予防すること、になると思います。

特に準備期、口腔期障害の中には歯科領域でのアプローチが必要とされるものが多くあります。例えば前歯で食物をかみちぎれない、いったん口に取りこんだ食物が口からこぼれてしまう、などが認められ、咀嚼・食塊形成障害では、歯牙が失われ、なおかつ義歯を入れるなどの歯科治療が行われない場合、咀嚼効率は急激に落ちていきます。一見して歯科的問題が認められない場合でも、義歯の安定、義歯の高さなどに問題があるために咀嚼効率が落ちている場合があります。義歯を装着することは、固有口腔形態を回復し、弛緩した口腔周囲組織に支持を与え、舌の運動を賦活化することになります。そのことが舌による食物の移動や後方への送りこみを可能にし、ひき続き起こる咽頭期での嚥下反射を可能にします。歯科的問題が認められた場合には欠損部を補う処置や、義歯を作るなどの必要な処置を行います。

摂食嚥下障害のある患者では食べかすが残ったままのことが多く、自発的な除去は、困難であり、また微量な食物や飲物と一緒にバイオフィルム中の細菌が肺まで落ち込み、誤嚥性肺炎を起こしやすいといわれています。

口腔ケアを行うことによって、誤嚥性肺炎を予防し、口腔内を清潔に保ちウ蝕や歯周病などの口腔疾患を予防することができます。

摂食嚥下障害がある場合、主治医、担当の看護師は常に口腔内の状態に気を配り、たとえば義歯があるか、歯の抜けた所がないか、痛む所はないか、歯が動いていないか、口の中が乾燥していないか、などのようなことに注意していただき、何か変化が見られた場合にはすぐに歯科に連絡してください。早期の診断と治療が、摂食嚥下障害の軽減につながったり、さらなる摂食嚥下障害の予防につながることも少なくありません。

関西リハビリテーション病院歯科
宮井大介

BOOK

リハビリテーション評価データブック

道免 和久　編集

医学書院、2010 年 3 月 発行
616 頁、B6 判変型、4,410 円（税込）
ISBN 978-4-260-00826-6

構想から 8 年、『リハビリテーション評価データブック』（医学書院：道免和久編）をようやく上梓することができました。内部での開発コード名は “Normandie”。特に意味がないネーミングでしたが、本当にノルマンディー上陸は極めて難航し、オリジナルのコンセプトを形にすることの難しさが身にしみました。

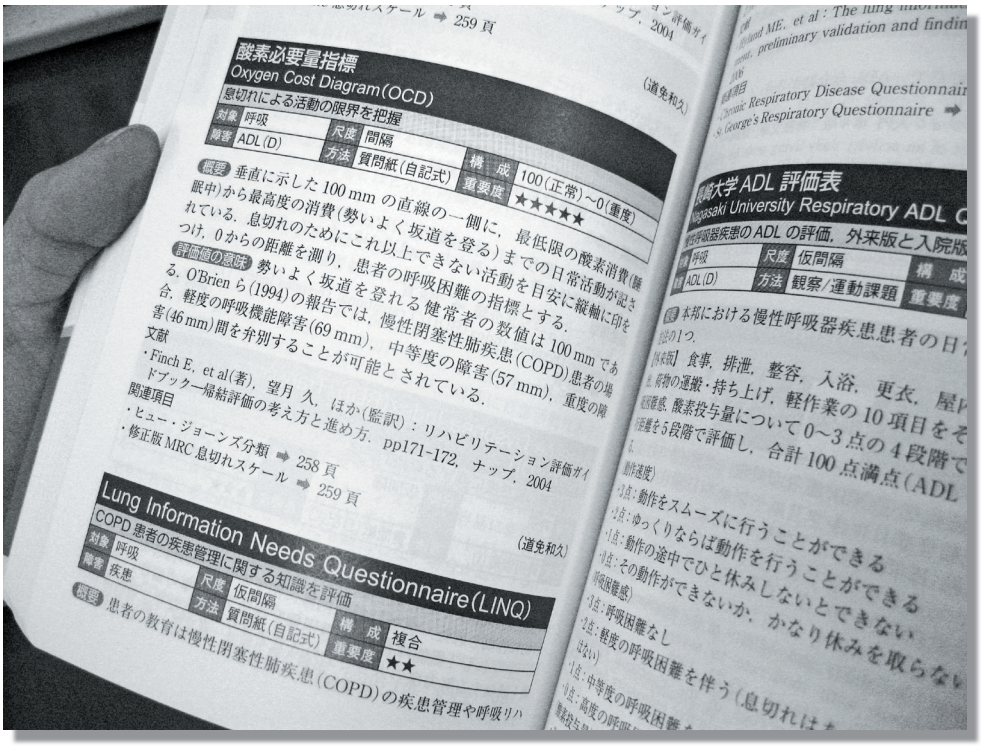
一般の書籍とは異なり、辞書的に網羅した内容を目指したため、各項目の縦糸とともに、全体を統一し、種々のアレンジを行う横糸の作業が重要でした。縦糸、横糸それぞれの仕事に貢献してくださった皆様に、一枚の立派な布が出来上がったことを、この場を借りてご報告するとともに、深く感謝申し上げます。

さて、内容をご紹介しましょう。あなたがカンファレンスに出ているとき、知らない評価データをもとに議論が進んでしまった経験はありませんか。カルテに書いてある他職種の評価データをきちんと理解していますか。そのうち調べようと思っているうちに、結局知らないままになっていることが多いと思います。また、よく知っている評価法でも、正確な正常値を暗記していることはほとんどないでしょう。さらに論文を読んでいる時、沢山の評価法が出てくるために、論文の主旨が理解し難い場合も少なくありません。本書はこのような評価法にまつわる問題点を解決してくれます。

本書は、臨床や研究でみかけた評価法が何を評価するのか、そして、評価結果の数字が何を意味するのかを教えてくれます。あくまでも「数字にこだわる」ことと「意味を知ること」という編集方針で作成しましたので、評価方法については概要を掲載するのみで、参考文献の参照が必要です。

主な使用イメージは、療法士や医師が白衣のポケットに入れて持ち歩き、カンファレンスや評価報告書で提示される評価法についてその場で調べる、というものです。常に携帯して参照することにより、リハビリ臨床や研究のあらゆる場面において、頼れる補佐役になると思います。また、これまでわからないままにしていた他職種の評価結果を知ることで、チーム間のコミュニケーションが活性化することも期待しています。

まだ、不足する評価法や改良点はありますが、随時改版を重ね、数十年以上進化し続ける本になることを願っています。はっきり申し上げてお勧め（！）の一冊です。　（道免和久）



会員募集のご案内

CRASEED では、随時、会員を募集しています！　治療効果が高い医療としてのリハビリ（Medical Rehabilitation）についての認識をともに深め、全国に広める活動にあなたも参加しませんか？
また、リハビリ医療に携わっている専門職の方で、もっとリハビリを勉強し、日常業務の質を向上できたらと思っている方も、一緒に頑張ってみませんか？
CRASEED 会員の中には、リハビリ科医だけでなく、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、看護師などさまざまな専門家がおられます。CRASEED に参加すれば、きっと専門的知識の勉強法を理解でき、具体的な疑問が解消されるだけでなく、あなたの専門性をより高められると思います。　（木村幸恵）

《連絡先》
〒 560-0054 大阪府豊中市桜の町 3-11-1
関西リハビリテーション病院内
TEL 06-6857-9640　FAX 06-6857-9641
Mail : office@craseed.org